

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 6 年 2 月 26 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 13名	(依頼数) 13名
地域アンケート回答数	1名	

※事業所記入

事業所番号	3870600362
事業所名	社会福祉法人回生会
(ユニット名)	グループホームA棟
記入者(管理者)	
氏名	寺川 安子
自己評価作成日	令和 6 年 2 月 6 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 1人ひとりのしあわせ、安らぎづくり</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①事業所の運営上の事柄や出来事(行事・設備改修・機械の導入・職員の異動退職等)について理解や協力が得られていなかった。コロナ禍であり、身近なところから報告し理解を得られる事を目標に取り組む。職員の異動・退職については、玄関に職員の写真を掲示し異動や退職、新入職についてその都度説明しながら理解を得た。行事ごと・設備の故障や導入については、運営会議の開催が出来ていない為、ご家族様が来所時にその都度説明している。 ②地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り合同の訓練や話し合う機会を作る等、協力体制を確保することが課題点である。コロナ禍であり、近隣の住民や他事業所との日頃からの連携は難しい状況。しかし、グループ内では定期的な訓練は行われている。以前は、訓練内容などが、一目で実施状況がわかりにくかった。誰が来られても、協力支援体制がわかることを目標に、玄関などすぐに目立つ場所に訓練時の様子を写真の掲示を行い、ご家族様の来所時に見ていただいている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 幹線道路から近く、西条市南東部ある事業所は、系列法人の病院や介護老人保健施設のほか、法人内の特別養護老人ホームなどのある広い敷地内の一角に立地し、医師や訪問看護と医療連携体制が図られるなど、利用者は安心して生活を送ることができる。事業所は市内中心部や瀬戸内海からも比較的近く、四季折々の田畑や山々の景色も眺められるなど、利便性も良く、自然にも囲まれている。また、法人等として、事業所前の田んぼを購入し、利用者と一緒に野菜作りなどを行うことを予定している。さらに、平屋で別棟のある事業所は各ユニットの独立性が高く、各ユニットのリーダーと管理者が協力をしながら、利用者により良いサービスを提供し、楽しみのある生活が送れるような支援に努めている。法人本部も近くにあり、新人職員からベテランの職員まで満遍なく配置されている。加えて、利用者手作りのお食事が提供され、一緒に食事を摂るなど、利用者にも喜ばれている。感染対策が続き、家族や地域との交流を自粛しているところも見られ、今後は様々な制限の解除に向けて、少しずつ変化や交流が行われていくことも期待される。</p>
--------------------------------------	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	日々の言動や表情を見ながら、声かけを行い、利用者一人ひとりの思いや暮らし方希望・意向の把握に努めている。	◎	/	○	入居時に、管理者等は利用者や家族と面談を行い、思いや希望、意向などの聞き取りをしている。また、日々の生活の中で、職員は利用者から思いを把握するよう努めている。把握した内容は、アセスメントシートや申し送りノートなどに記載し、職員に周知して共有をしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	本人とよく話をし、「本人はどうか」等問題点があれば申し送りや職員会で話している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	家族や親戚・友人・地域の方が来られた際は話し合いを行い、また連絡を密にしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	経過観察。支援記録申し送りノートなどで職員の情報共有を行っている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	利用者様の思いを聞き、時間の空いているとき、申し送りなどで意見交換を行い思いを尊重している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	居室に馴染みのあるものを置いたり、家族や友人の方から利用者に関する情報を得ている。	/	/	◎	入居時に、管理者等は利用者や家族と面談を行い、アセスメントシートを活用して、生活環境や生活歴などの聞き取りをしている。生活歴の欄には、学童期のクラブ活動や結婚歴、居住していた場所、以前の仕事などの情報が残されていることを確認することができた。また、日々の生活の中で、利用者から新たな情報を聞くこともあり、記録に残し、職員間で共有をしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	24時間シートを見ながら利用者様が出来る事や見守りによる必要な部分を明確に現状把握に努めている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	日々見守り強化し、経過観察、支援記録・生活リズムパターンシートに確実に日々の変化を記録している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	利用者様の立場になり考えているが、求めていることをすべて理解するのは難しい。	/	/	○	介護計画の更新前に、利用者ごとの担当職員が、身体状況を中心に、再アセスメントを行い、アセスメントシートの情報を更新している。また、職員会等の中で、課題やより良いサービスの提供を検討している。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	◎	利用者様一人ひとりの24時間シートに必要なことを明確に記載している。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	サービス担当者で要点や個人の短期目標を立てて反映されている。	/	/	/	事前に、往診時に医師から指示やアドバイスももらい、アセスメント情報や把握した情報をもとに、担当者会議の中で話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。また、利用者や家族が会議に参加できない場合には、事前に意見や要望を聞くようになっている。さらに、利用者から出された意見や要望のほか、話し合われた内容を反映した介護計画の内容を確認することができた。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	サービス担当者会議で利用者様、ご家族様と話し合い会議中に出た意見の検討やそれぞれの課題をもとに作成している。	◎	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度の利用者様に対してもその人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容になっている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	地域の方との協力体制の仕方が不明確でわからない。現在コロナの為交流を見合わせている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	6か月ごとに計画書の見直しを行い、内容を把握理解し職員間で共有している。	/	/	/	◎ 介護計画の立案時に回覧を行い、職員の確認後に押印するとともに、修正のある場合には報告をしている。また、計画が綴じられた利用者の個別ファイルが事務所に置かれているほか、支援経過等の記録用紙の上部に番号が振られた短期目標が印字され、記録の際に、計画の内容を確認できるようになっている。支援経過記録には、日々の様子のみに留まらず、番号の目標等に対応した記録が記載できるようになっているが、有効に活用されていない記録も見受けられたため、普段と変わった言動やサービス提供時の様子、サービスが実施できなかった理由を記載するなど、職員間で統一感のある記録が残されることも期待される。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	利用者に対する日々の支援記録、3ヶ月に1回のモニタリングに記載し支援に繋げている。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じた見直しを行っている。	◎	介護保険の期間に合わせ、6か月に1回見直しを行っている。	/	/	/	◎ 介護計画は6か月に1回見直しをしている。担当職員が月1回モニタリングを実施して、利用者の現状を確認するとともに、3か月に1回モニタリング表に評価やコメントを残している。また、月1回の職員会の中で、一人ひとりの利用者の課題などの検討を重ねるため、変化がない場合を含めて、検討する機会を設けることができている。さらに、大きな変化が見られた場合には、担当者会議を実施して計画の見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月1回は職員の見聞き、話し合って状態確認を行っている。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	日々の申し送り、サービス担当者会議を行い、家族、医療機関と話し合い課題解決に向けて計画作成を行っている。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上で課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	月1回職員会を開催し、一人ひとりの課題について話し合っている。	/	/	/	◎ 月1回ユニットごとに職員会を実施し、利用者の現状確認や課題などの話し合いをしている。事前に、希望休を考慮した次月の勤務表の作成後に、職員会の開催日を決め、より多くの職員が会議に参加できるようにしている。また、会議の終了後に議事録を作成するとともに、全ての職員に回覧を行い、確認後にサインを残すようにしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	職員間はチームワークが良く、お互い信頼関係が築かれており、活発な意見交換が出来る。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	職員が多数参加できる日を設定し参加できない職員は議事録を読み申し送りで正確に伝える様な仕組みにしている。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	毎日支援記録、リズムパターンシートに記録し支援につなげている。職員ノートに記載・内容を読み、申し送りの際は必ず伝えている。確認印を押す。	◎	/	◎ 生活リズム・パターンシートや申し送りノート、連絡帳などを使い分け、日々の申し送りを実施している。出勤時等に確認を行い、職員は確認後にサインを行うことが習慣化され、現在のところ、伝達の漏れなどは発生していない。	
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	個々にあったレクリエーションの呼びかけ、散歩などを行っている。	/	/	/	◎ 着る服やおやつの種類、風船パレーやぬり絵などのレクリエーションの参加の有無など、日常生活の様々な場面で、職員は声をかけ、利用者によって選択や自己決定することができるよう支援している。また、利用者は好きなことをしながら、自由に生活を送ることもできる。さらに、音楽療法や外気浴などの場面で、生き生きとした表情が多く見られ、職員は喜びや楽しみのある生活の場面が増やせるように取り組んでいる。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	日常生活の場面で利用者様の思いや希望を聞き、自己決定をしている。	/	/	/	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	職員は個々の生活リズムを把握して、本人のペースに合わせた支援を行っている。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	利用者全体が共有する歌を唄い、楽しい気分を高めたり個々の自身につながる場面づくりを心掛けている。	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	思いやりの心がけや興味のあるものを提供したり、反応を見ながら楽しく過ごせるよう支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声をかけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	◎	プライバシーに配慮した言葉かけや、他の利用者に対しての介護・誘導に気を付けて行っている。	◎	◎	○	◎ 声かけのほか、気持ちや感情を大切に接遇などの研修を実施し、人権や尊厳などの理解を深めてもらい、職員は意識した対応をしている。また、居室を利用者専用のプライバシーのある場所の意識づけを行い、入室時に、職員はノックや声かけをしてから入室をしている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	排泄時は、ほかの利用者様が入らない様に注意ドアの外からノックや声掛けを行っている。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室の入り口で声掛けをしてから入室し、必要時には本人に伝え入室している。	/	/	/	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	利用者様のプライバシー保護や個人情報について理解し、守秘義務を順守している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	職員は少し困難な場面に遭遇した時は助けてくださったり、教えてもらったりの関係性を築いている。	/	/	/	トラブルが起こりそうな場合には、職員が早期に間に入るなどの対応を行い、未然に大きなトラブルを防げるように努めている。また、職員は一人ひとりの利用者の性格や相性を把握し、席替えをして利用者同士の距離を調整したり、イベントの中で一緒に活動することで、仲を取り持ったりするなどの工夫を行い、可能な限り良好な関係が築かれるように努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者様同士が手を差し伸べ助け合っている光景は、共同生活の場において大切なことと理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	トラブルを軽減するため席替えを試みたり、孤立しがちな利用者様が気兼ねなく話し合える関係を重視した場所づくりをしている。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	職員はトラブルに対し解消に努め、当事者や他者に支障が生じないよう細心の注意をしている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	入所時に馴染みの場所などの情報を入手している。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	受診時等で外出されたときに家族様が、自宅やお墓参り等に連れて行って欲しかったが、現在もコロナが終息していない為、外出を控えている。家族様が用事で来所してくれた時に玄関先で対応を行っている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	外出可能であれば外庭散歩を行い、季節の花など觀賞されている。現在コロナの為、ドライブや花見などは見合わせている。時間帯や曜日を決めての玄関先での家族との面会は、来所時に行っている。	○	△	△	コロナ禍や感染対策が続き、積極的な外出支援まではできていないものの、広い敷地内を歩いたり、屋外に出て、外気浴や体操をしたりするなど、利用者が気分転換を図れるよう支援している。感染対策の緩和に伴い、少しずつ以前のような外出行事や、家族との外出や買い物などが行われていくことも期待される。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	外部の協力を得ることは少なく、担当の民生委員さんをお願いしているが、現在もコロナにより中止している。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	状態の変化があれば、その都度要因を紐解き、取り除くケアを行っている。	/	/	/	利用者の高齢化や重度化に伴い、自立度が下がってきているものの、可能な限りできることは自分でしてもらい、職員は手や口を出さずに見守り、待つ介護に努めている。また、共用スペースには、分かりやすく体操の順番が貼られ、定期的に体操を実施している。さらに、日常の家事などの生活リハビリや散歩などを取り入れ、少しでも利用者の心身機能の維持が図れるよう努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	機能低下の特徴を理解し、日々リハビリ訓練を行い筋力低下、機能維持向上が図れるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	自立を尊重し、入浴・食事・排泄・洗濯たみなどの役割出番を割り振っている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	入所されたときの情報、日々の会話から好みや楽しみにされていることを聞き出し、把握する様になっている。	/	/	/	洗濯物たたみやお盆拭き、ヤクルト配りなど、職員は利用者にも声をかけ、できることや得意な役割を担ってもらえるよう支援している。また、手伝ってもらった後には、職員から「ありがとうございました」などの感謝の言葉を伝える機会を増やし、張り合いや次回の支援にも繋げている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	簡単な洗濯物たたみや簡単な調理等、見守りしながら楽しみながら行っている。	◎	◎	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	生活歴の中から好みの服装、化粧、身だしなみなどを最大限に引き出すように努めている。				2か月に1回、訪問理容の来訪があり、好みの髪形に整えてもらうことができている。また、整容の乱れや服の汚れが見られた場合には、気づいた職員がさりげなく声をかけてフォローをしたり、居室に移動して、着替えてもらったりするなどの対応をしている。さらに、重度な利用者にも、毎日更衣をしてもらうほか、共有スペースに移動して過ごしてもらうなど、重度でない利用者と同様のケアを心がけた支援に努めている。	
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	主に入所時に、利用者様の好みの服や物を持参して使用している。散髪は訪問を利用し、自分の好みの髪形にしている。					
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一線に考えたりアドバイスを等本人の気持ちにそって支援している。	◎	職員がいくつかの選択肢を準備し、本人が自己決定が出来るようにしている。					
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しむよう支援している。	○	選択を職員が準備し、自己決定を本人がするよう工夫している。					
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	髪・服装・履物等本人に自己決定をしていただき、その人に合わせた食後の口腔ケアを行っている。	◎	◎	◎		
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	理容に関しては、定期的に決まって理容店が来ている。					
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	好みの服装の中から季節に応じた服装で本人らしさが保てる工夫をしている。					○
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	唯一食べることを楽しみにしており、楽しんで食事が出来るように常に心掛けている。				法人の管理栄養士が献立を作成し、法人本部から食材が届けられ、各ユニットで職員が調理をしている。利用者の重度化のほか、感染対策に伴い、できること限られているが、可能な限り、利用者へ下膳やお盆拭きなどを手伝ってもらっている。誕生日にケーキを提供することもある。食器や湯飲みなどは、入居時に使い慣れた物の持ち込んで使用することもできるほか、状態に応じて、職員は使いやすい物を家族等に提案し、用意してもらうこともある。食事の際に、職員は同じテーブルに座り、見守りや食事介助をしながら、同じ食事を摂ることができている。重度な状態であっても、共用スペースに誘導して、食事を摂ってもらうことができおり、カウンターキッチンから、調理の音や匂いなどを感じるほか、ホワイトボードにメニューを記載して説明するなど、食事が待ち遠しくなるような雰囲気づくりにも努めている。また、管理栄養士にメニューを相談するほか、食べやすい食事の形態のほか、嗜好や嫌いなメニューなどを職員会の中で話し合いをしている。	
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	買い物の仕分け、お盆拭きなどを手伝ってやっている。					○
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	自らの手を消毒し、お盆拭きを手伝ってくれている。					
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	食品のアレルギー、好みの物嫌いなものは、入所時に本人様やご家族様から聞き取りし把握している。他の代替えを行い食べてもらっている。					
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音なつかしいもの等を取り入れている。	○	管理栄養士により献立が決まっている。					○
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	管理栄養士の献立表にて調理している。身体機能に合わせて、刻み、とろみをつけている。					
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	各個人で好みの物を使用している。					◎
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食卓のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	同じ食卓では食事をしていないが、食べるペース、食べこぼしなどのサポートは日々している。					◎
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	ボードにメニューを表記し、生活の中で利用者へ伝え、楽しみにしていただいている。	◎				◎
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	食事は献立表に基づく。水分量は生活リズム、パターンで水分量を把握し不足しない様に心掛けている。					
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	飲み物の量を増やし、回数、タイミングで工夫している。					
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	同法人内の管理栄養士が行っている。行事により職員と話し変更を行っている。					○
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	調理器具は毎日ハイター液につけて消毒、食材は新鮮なものが届けられ、日付の確認を行い衛生管理に努めている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	毎食後、就寝、起床時の口腔ケアを誘導している。	/	/	/	毎食後のほか、起床時や就寝前に、職員は利用者に声をかけ、共用スペースにある洗面所で、自分でできる歯磨きなどの口腔ケアを実施し、見守りやできない部分のサポートをしている。自分で歯磨きができる利用者を含めて、定期的に全ての利用者の口腔内の確認を行い、訴えのほか、義歯のかみ合わせなどの異常が見られた場合には、早期の歯科受診に繋げている。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	毎食後、1人ひとりの口腔状態やカにに応じて口腔ケアを行っている。	/	/	/		○
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	歯科受診の時、資料をいただきその際の正しい方法を表示している。	/	/	/		/
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	日々夕食後、就寝前にリハビリによる殺菌を行っている。	/	/	/		/
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	◎	起床時、毎食後、就寝時に声掛け誘導を確実にしている。必要に応じ家族様に歯科受診を依頼している。	/	/	/		/
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	失禁状態が長く続かない様に、頻回にこまめにトイレ誘導を行っている。	/	/	/	事業所では、基本的に利用者がトイレで排泄できるように心がけた支援に努めている。また、生活リズム・パターンシートを活用して、利用者の排泄パターンを把握し、定期的やタイミングを見て、職員は声かけやトイレ誘導をしている。また、失禁等が多くなった場合には、適切な排泄用品の使用を職員間で検討し、利用者や家族に相談の上で、使用するようになっている。さらに、安易におむつを頼ることのない支援に努め、おむつを履いて入居した利用者が、こまめな声かけやトイレ誘導をすることにより、リハビリパンツに変更となり、その後シルバーカーを使用して自分でトイレに行けるようになった事例もある。	
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	バイタルチェック、リズムパターンを日々確認し、表情や言動に注意し対応を行っている。	/	/	/		/
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	毎日生活リズムパターンに記録し把握している。	/	/	/		/
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	パッドを使用している人もいるが、基本トイレ誘導を行っている。	/	◎	/		◎
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	定期受診時に医師に相談、訪問看護と密に連携を取り、便秘などが長く続かない様に取り組んでいる。	/	/	/		/
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	状況を見ながら、時間を追って早めに誘導を行っている。	/	/	/		/
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	利用者様ご家族様と相談させていただき、選択できるよう支援している。	/	/	/		/
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	入浴時、本人の好む衣類を準備していただき適宜使い分けている。	/	/	/		/
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	体操、廊下歩行、立位訓練を毎日導入し便秘予防に取り組んでいる。	/	/	/		/
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	入浴の長さ、お湯の温度は個人の希望、習慣に沿うようにしている。	/	◎	/	午前中の時間帯に、週3回利用者は入浴することができる。湯の温度や湯船に浸かる長さなど、可能な限り、利用者の希望や習慣を考慮した支援に努めている。利用者の状態に応じて、時には、職員が短パンを履いて湯船に浸かるなどの支援をすることもある。中には、入浴を拒む利用者もあり、時間帯や職員を変えて、声をかけるなどの工夫をしている。今後は、利用者が希望する入浴回数の増や時間帯にも可能な限り対応するなど、利用者により自由な入浴できる機会が提供していくことも期待される。	
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	◎	心に残っている楽しい思い出、子供の自慢話をしながらくつろいだ気分に入浴できるよう支援をしている。	/	/	/		/
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	自尊心を尊重し、洗身や更衣等自分で出来る事はしていただき、出来ないところは支援している。	/	/	/		/
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	入浴拒否に対しては原因を理解し、順番を変更し穏やかに気持ち良く入浴できるように声掛けに工夫している。	/	/	/		/
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前のバイタルチェック、直前の表情観察をし、入浴許可を見極め、入浴後は水分補給をしている。	/	/	/		/

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	リズムパターンシート支援記録で把握している。	/	/	/	事業所では、安易に服薬に頼ることなく、日中の活動を楽しみながら、夜間に利用者が安眠できるよう支援している。中には、不穏が続き、服薬をしている1名の利用者があるものの、定期的に、利用者の様子を医師に伝えて相談をしている。また、生活リズム・パターンシートに記録を残し、一人ひとりの利用者の睡眠状況の把握をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	昼夜逆転にならない様、昼寝の時間調整、日中の対応、不穏な状態で就寝にならない様声掛けしている。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	現在は、眠剤を使用している利用者様はいない。	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	居室は本人が自由に安らげる場所で有効活用している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	家族様から事務所に電話があれば代わりに対応されている。字が書ける方は請求書送付時に書いたものを一緒に送っている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	電話の対応は出来ているが、手紙のニーズがなく年賀状や家族様からの手紙が届けば職員が補助して作成している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	事務所にかかってくるため、ドアを開けて気兼ねなく話ができるように配慮している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	手紙、荷物が届けば、必ず返信し、電話や手紙で対応している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	ホームにかかってきたときなどは、入居者と代わり話をされるが、本人に直接かかってくることはない。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	理解しているが認知症の為、管理ができる利用者はいない。利用契約により、金銭の管理は家族がしている。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	本人の希望する買い物や必要な物は、家族と相談して買い物先の理解(体に合うサイズ)や協力を得て行っている。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族が遠方の場合、数千円程度持っている方もいるが、ほかの方は預り金の中から必要な物、希望の物が買えるよう支援をしている。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族と相談の上、預り金を利用して必要な物を購入している。領収書を渡し、毎月残金を知らせている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	毎月領収書を渡しているが、出納帳の残金を確認してもらい、残りが少なくなった場合はその都度1万円程度を預かっている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	利用者様の家族様が他県在住や緊急の場合は、家族に同意を得て職員が病院に連れて行ったり、救急車で同行するなど可能な限り対応している。	◎	/	○	コロナ禍や感染対策が続き、外出や面会などの制限が設けられ、対応できないこともあるが、利用者や家族から出された要望は検討を行い、可能な範囲での対応に努めている。感染対策や制限の緩和に伴い、今後は、アセスメントなどで得られた個別のニーズに対して、柔軟に対応していくことも期待される。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関周辺に季節の花や野菜を植え、緑が多く楽しめるように工夫している。	◎	◎	◎	建物の前には家庭菜園や花壇が整備され、キャベツやチシャなどの野菜のほか、デイジーなどの花が育てられている。また、桜などの木が植えられ、春には事業所の窓からもきれいな花が見えるようになっている。系列法人を含めて、広い敷地内の一角に事業所はあり、近隣の住宅は少ないものの、初めて来所する人も、気軽に入れる雰囲気となっている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	◎	玄関に花を飾ったり、廊下に壁紙や写真を貼ったり、和やかになる雰囲気を作り出している。	◎	◎	◎	共有スペースにはソファやテーブル、テレビが置かれ、日中に利用者は思い思いのものをしながら、くつろぐことができる。訪問調査日には、職員の電子ピアノに合わせて、懐かしい歌を歌う音楽療法が実施され、楽しそうに歌う利用者の様子を見ることができた。また、廊下などの共用スペースには、行事や生活の写真のほか、利用者が作成した作品が飾られ、家庭的な雰囲気も感じられる。さらに、掃除や換気が行き届き、不快な音や臭いも感じられず、採光も入り明るく、快適な空間となっている。窓からは、近隣の田畑が見えるなど、利用者は四季を感じる事ができる。
		b	利用者にとって不快な音や臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日フロア廊下など、ハイター拭きを行っている。換気も定期的に行っている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節で壁紙を作成し季節感を出している。			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	席の配列を考慮している。居室の出入り口も自由にしており、個々の生活ペースを配慮している。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	居室には家族の写真や絵を飾ったり、使い慣れている鏡台、棚など身だしなみの品を置いている。	◎		○	居室にはベッドやタンスなどが備え付けられている。利用者は馴染みの物や使い慣れた物を持ち込むことができ、テレビやいす、家族の写真、自分が作成した作品を置くなど、居心地の良い空間づくりをしている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	歩行訓練を行ったり、各エリアの表示を明確にし日曜日には、一斉に掃除や整理を行い、誤嚥などのリスクにつながるものは目につく場所に置かないように気を付けている。			○	建物の設計上もあり、高い位置にトイレや浴室のマークが取り付けられているが、認識しにくい利用者も多くいるため、利用者の目線の高さに合わせて、様々な表示や案内が貼られ、混乱しないように工夫をしている。また、廊下には手すりも設置され、不要な物を置かず、利用者の動線を確保している。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	趣味の本や雑誌があり閲覧できるようにしているが、定位置化されていない。職員が手渡すと読まれる。自らは読もうとしない。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	◎	理解実行し、自由の大切さと安全確保について日頃から話し合っている。	◎	◎	◎	職員は、鍵をかけることの弊害を理解している。日中に、玄関の施錠をしておらず、夜間のみ防犯のために施錠をしている。また、外に出ようとする利用者には、職員が声をかけ、屋外に出て、寄り添いながらゆっくりと散歩をしたり、話を聞いたりするなどの対応をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	自由の大切さと、安全確保については日頃から話し合っている。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入院時のサマリーや処方箋で明確になっており、把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	小さな変化も見逃さない様に目配りをして、変化があれば援助記録や日誌に記録をしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	かかりつけ医の一覧表を作成して、明確にしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	受診状態はファイルしている。医療機関や医師も明確にしており、受診支援を行っている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	受診状態は残しており、医療機関の医師も明確にしており、受診支援を行っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診結果に異常があれば、家族に連絡し合意の得られる話し合いを行っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	生活リズムパターンシートや支援記録の情報提供を行っている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	毎週来られる訪問看護師と情報交換を密に行っている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	毎週の訪問で実行しており、変化がある場合、その都度連絡し対応している。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	明確にして実行できている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	常に外来と連絡を取っており、実行できている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	職員は、利用者が使用する薬の目的・副作用・用法用量を理解し、本人の状態の経過や変化を記録し、その都度家族や医師、訪問看護師等に情報共有している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	職員が日付の表示をして個人ごとに、朝・昼・夕と区別している。服薬は誤薬にならないよう個別化している。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	リズムパターンシート支援記録で明確にしており、日々確認している。	/	/	/	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	重度化したり、終末期があれば、医師、家族と話し合い意向を明確にしている。	/	/	/	事業所には、「重度化対応・終末期ケア対応指針」があり、入居時に、利用者や家族に説明して、同意を得ている。また、24時間体制で、系列法人の病院や訪問看護との医療連携体制が図られ、利用者や家族、職員には安心感がある。状態の変化や重度化した場合には、受診時に主治医から家族等に説明してもらうとともに、家族や関係者、管理者等を交えて話し合い、方針の決定や共有をしている。また、系列法人には病院や介護老人保健施設のほか、法人内に特別養護老人ホームなどもあり、状態の変化や重度化した場合には、病院等に転居する利用者が多く、今までに事業所として看取り支援はほとんど行われていない。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	入居時説明しており、重度化終末期が来た場合、医療機関、家族と話し合い、意向を明確にしている。	◎	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	グループホームでの現状はこの辺までと見極め、その後は医師、家族に依頼している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入所時明確にしており、確認している。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	重度や終末期は家族と連携を図り今後について話し合っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族には連絡を密にとっている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	一部の感染症については表示している。季節や流行時には申し送り、職員会などで注意喚起をしている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	日頃から訓練を行う体制は確立されていないが、感染症が発生した場合は対応できるようにしている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	本部や医療機関からの感染症情報は入手出来ている。	/	/	/	
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	手洗いは日々行っている。来所時の注意事項も表示している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族の要望を把握し、寄り添った介護を支援する。				コロナ禍や感染対策が続き、家族の参加を呼びかけた行事や家族会の開催を自粛している。今後は、感染対策を講じた上で、少しずつ家族との交流が再開されていくことを期待したい。また、時間制限を設けて、玄関スペースでの家族との面会が可能となっている。毎月請求書の家族への送付に合わせて、利用者や事業所の様子を書いた手紙を同封し、利用者の近況を伝えている。必要に応じて、電話連絡を行い、利用者の様子を伝えている。さらに、前回のサービスの評価結果から、職員の入退職などの異動は、玄関スペースに貼って家族に周知するとともに、面会時に家族に確認してもらうなど、家族に伝わるよう改善されている。運営上の連絡は少ないが、必要に応じて、説明をするようにしている。加えて、来訪時に玄関先での対応となっているが、職員は家族等に声をかけ、意見や要望を聞くようにしている。	
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	以前は家族会等行事に参加していただき、出来る事は手伝ってもらっていたが、現在コロナが終息していない為中止している。	○		△		
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの」発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月手紙で様子を伝え、ホーム便りも写真も同封している。利用者様の状況について電話や来所時に伝えている。	◎		◎		
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	食事やお茶の時に、一緒にテーブルにつき利用者同士のサポート、見守り等で支援している。					
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	管理者と職員が面談する機会を持ち、職員会や申し送り意見等を述べている。	◎		◎		○
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	利用者様に何かあれば、連絡を申し承を得て対応を話し合っている。					
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	来所時や電話等で気がかりな事と伝えていただき、改善を行い安心して頂ける様な支援を行っている。					○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	入所されたときに必ず説明し、契約及び料金改定時は料金の設定を具体的に説明し、家族様から同意・納得をいただいている。					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退去については契約に基づき、納得のいく退去先に移れるように支援している。					
III. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議の時、出席していただき目的などを説明していたが、現在はコロナ終息しておらず書面で説明し理解を図っている。			○	コロナ禍や感染対策が続き、積極的な地域住民との交流まではできていない。事業所前の散歩時に、出会った住民には挨拶をしている。また、看護学校の学生の実習の受け入れにも協力をしている。今後は、感染対策を講じた上で、少しずつ地域との交流が再開されていくことも期待される。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	行事、会議等に出席していただき、言葉を交わして感想をお聞きしている。			△		○
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	自治会やボランティアの方も見守ってくださっているが、増えてはいない。					
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	会議の際に野菜の苗、花などを気軽に持ってきてくださっている。					
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	お会いすれば気軽にあいさつし、盆踊りなどの行事に参加していただいていたが、現在はコロナ終息しておらず行事の参加はない。					
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	地域の方がボランティアで踊りや色々な演奏などに来て下さり、交流を図っていたが、現在はコロナ終息していない為中止している。					
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	ボランティアによる見守りは、現在コロナ終息に至っておらず中止している。消防や電力などの施設点検など協力はある。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	◎	家族、地域の方、行政、本部施設長、居宅ケアマネに参加していただき、近況報告を行っている。現在コロナ終息していない為、書面での対応となっている。	◎	/	○	コロナ禍や感染対策が続き、運営推進会議は書面開催が続いている。各ユニットの家族の中から、会議の参加担当を決め、4家族が参画をしているが、新たに入居した家族には議事録を送付することはできているものの、会議に参加していない全ての家族までには会議の内容を周知することができていないため、会議の終了後に議事録を全ての家族に送付したり、事業所便りでお知らせしたり、事前に意見を出してもらうなど、会議に参画できる機会が確保されることも期待される。また、書面開催の会議が続いており、事前に参加メンバーから意見を聞いたり、感染対策を講じた上で、集合形式の会議を再開することも期待される。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	◎	運営推進会議で取り組んだ内容を送付し、内容に対しての議題や意見等話し合っていた。現在はコロナ終息していない為、書面にて対応。その都度、意見や課題なども取り組むことができるよう努めている。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	現状コロナは完全に終息しておらず、運営推進会議を開催できていない。月に1回程度ご家族が来所されたときに施設の状況やご本人の状態を説明している。	/	/	◎	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	職員に理念を掲げており、日々日常的に理念に基づいた実践を心掛けている。	/	/	/	代表者は直接事業所に来訪する機会が少ないが、管理者が朝礼や職員会の機会に職員から意見を聞き、必要に応じて、法人本部に伝えることもできる。また、勤務表を作成時に希望休を聞いたり、ストレスチェックを実施したりするなど、働きやすい職場環境づくりに努めている。
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	玄関の見えやすいところに理念を掲げている。	◎	◎	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	春の研修後、プリントを閲覧し呼びかけている。	/	/	/	代表者は直接事業所に来訪する機会が少ないが、管理者が朝礼や職員会の機会に職員から意見を聞き、必要に応じて、法人本部に伝えることもできる。また、勤務表を作成時に希望休を聞いたり、ストレスチェックを実施したりするなど、働きやすい職場環境づくりに努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるように取り組んでいる。	○	勤務にあわせ多くの職員が研修に参加できるように、毎月職員会にて勉強会を行っている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	労働のやりがい、向上心をもって職員が働ける環境づくりの為、時折職員と話し合いを行っている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	毎月管理者会を実施し意見話し合い、向上に努め他の職員に申し送り、向上に努めている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	直接代表者と話をすることは少ないが、上司経由で環境の改善に取り組んでいる。また、職員会などで伝えている。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	職員会や申し送りで話し合ったり、代表者も参加し定期的に勉強会を行っている。	/	/	◎	定期的に、虐待防止の研修を開催し、職員は不適切な言動などを理解している。また、委員会を設置して、虐待対応担当者の選任を行い、定期的に話し合いをしている。さらに、不適切な言動が見られた場合には、職員は管理者等に報告し、該当職員に確認して、指導や注意喚起をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	申し送りで話し合っている。機会があれば、その場で話し合っている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	直接代表者と話しをすることが少ないが、申し送りで体調確認し休めば連絡を都度とり、職員と機会があれば話し合っている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	△	朝夕の申し送りで話し合っている。定期的な職員会でも手順を話し合っている。	/	/	/	代表者は直接事業所に来訪する機会が少ないが、管理者が朝礼や職員会の機会に職員から意見を聞き、必要に応じて、法人本部に伝えることもできる。また、勤務表を作成時に希望休を聞いたり、ストレスチェックを実施したりするなど、働きやすい職場環境づくりに努めている。
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	日々の申し送りや職員会で、身体拘束について話し合う機会を作っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	要望があった場合、話し合いを重ねながら理解を図っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	×	成年後見制度についての勉強・教育不足で理解はできていない。相談があれば対応し支援体制を行いたい。	/	/	/	
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	市の包括支援センターとの連絡体制は取れている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	訪問看護の指示をいただき行動している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的講習会を開催しているが、参加できない場合が多い。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハット、事故報告書、申し送り等で話し合い、再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	日々の小さな変化があれば、申し送りをし、再発防止に努めている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルに沿い、明確に対応している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情があった場合は、上司と相談し明確に対応している。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があれば、速やかに対応し頻りに話し合い解決に努めている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	意見や要望があれば、運営推進会議などで対応されている。	◎	/	○	日々の生活の中で、職員は利用者から意見や要望を聞き、可能な範囲で対応をしている。家族には、来訪時や電話連絡時を活用して、意見や要望を聞くように努めている。事業所には、提案箱が設置され、家族等は意見を出せるようにしているが、あまり出されない状況となっている。また、管理者はリーダーと協力し、職員会や日々の業務の中で、職員に声をかけて意見を聞いている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	面会された時、苦情・相談等の情報提供を行っている。	/	/	/	
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	1~2ヶ月に1回職員会等で、意見交換は設けられている。	/	/	/	
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	時間、場所などの設定はないが、日々常に声掛けをされている。	/	/	○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	毎年行えず、外部評価がある年度のみ全員で自己評価に取り組んでいる。	/	/	/	外部評価の自己評価は、全ての職員で取り組み、管理者等が取りまとめて作成をしている。職員会等の中で、サービスの評価結果を職員に周知し、目標達成計画を作成して、達成に向けて取り組んでいる。また、運営推進会議の中で、サービスの評価結果の報告をしている。感染対策が続いたこともあり、目標達成計画の取り組み状況のモニターを呼びかけるまでには至っていないため、集合形式の会議の中で、サービスの評価結果や目標達成計画を報告して、意見をもらったり、家族や会議の参加メンバーに呼びかけて、取り組み状況のモニターの協力をしてもらったりするなど、出された意見をサービスの質の向上に繋げていくことも期待される。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	転倒や誤薬に気を付ける目標を立て、職員会で話し合い目標達成に向けて取り組んでいく。	/	/	/	
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議で伝え、参加されていない方にも内容を伝えている。	◎	◎	○	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議等にて、目標達成計画に挙げた取り組みの成果を報告確認している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	周知し連携できている。	/	/	/	定期的に、火災などを想定した避難訓練を実施している。感染対策が続き、地域住民や他の事業所と連携した訓練までは実施することができていない。また、法人として、食料などの備蓄品を用意している。今後は、法人本部と連携を図りながら、避難訓練を実施したり、地域の防災訓練に参加協力をしたり、地域住民との合同の避難訓練を実施するなど、少しずつ地域との災害時の協力支援体制づくりが行われていくことを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	定期的に避難訓練をしているが、夜間帯の訓練は行われていない。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	消防設備の点検は年2回、備品・物品の準備は本部で行っている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署とは協力支援体制がとられているが、地域住民との連携は不足している。	○	×	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	関連施設間の連携は取れている。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	広報誌の活動等で認知症について伝えている。	/	/	/	系列法人には市行政から委託を受けた地域包括支援センターもあり、直接相談が寄せられることは少ないが、地域住民から相談が寄せられた場合には、快く対応をしている。また、看護学生の実習の受け入れにも協力をしている。事業所では、市行政や関係機関と連携を図ることができている。感染対策が続き、地域ケアの拠点として、他の事業所と協働するまでには至っておらず、法人本部や地域包括支援センターなどの関係機関と協力しながら、地域活動に協働していくことも期待される。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	地域の高齢者や認知症の方の相談があれば対応し、支援をしている。	/	◎	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	以前は、本部にある地域交流センターでは、あいあいコンサートが行われ、オペラカフェ等利用され地域の集まりの場となっていたが、現在コロナ終息出来ていない為、活動は出来ず。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	ボランティアや介護実習生の要請があれば、受け入れ協力している。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	市や地域包括センターは運営会議を通してかかわりを持っている。医療では、協力病院と密に連携している。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 6 年 2 月 26 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 13名	(依頼数) 13名
地域アンケート回答数	1名	

※事業所記入

事業所番号	3870600362
事業所名	社会福祉法人 回生会
(ユニット名)	グループホームB棟
記入者(管理者)	
氏名	川口 峰子
自己評価作成日	令和 6 年 2 月 6 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 1人ひとりのしあわせ、安らぎづくり</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①事業所の運営上の事柄や出来事(行事・設備改修・機械の導入・職員の異動退職等)について理解や協力が得られていなかった。コロナ禍であり、身近なところから報告し理解を得られる事を目標に取組む。職員の異動・退職については、玄関に職員の写真を掲示し異動や退職、新入職についてその都度説明しながら理解を得た。行事ごと・設備の故障や導入については、運営会議の開催が出来ていない為、ご家族様が来所時にその都度説明している。 ②地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り合同の訓練や話し合う機会を作る等、協力体制を確保することが課題点である。コロナ禍であり、近隣の住民や他事業所との日頃からの連携は難しい状況。しかし、グループ内では定期的な訓練は行われている。以前は、訓練内容などが、一目で実施状況がわかりにくかった。誰が来られても、協力支援体制がわかることを目標に、玄関などすぐに目立つ場所に訓練時の様子を写真の掲示を行い、ご家族様の来所時に見ていただいている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 幹線道路から近く、西条市南東部ある事業所は、系列法人の病院や介護老人保健施設のほか、法人内の特別養護老人ホームなどのある広い敷地内の一角に立地し、医師や訪問看護と医療連携体制が図られるなど、利用者は安心して生活を送ることができる。事業所は市内中心部や瀬戸内海からも比較的近く、四季折々の田畑や山々の景色も眺められるなど、利便性も良く、自然にも囲まれている。また、法人等として、事業所前の田んぼを購入し、利用者と一緒に野菜作りなどを行うことを予定している。さらに、平屋で別棟のある事業所は各ユニットの独立性が高く、各ユニットのリーダーと管理者が協力しながら、利用者により良いサービスを提供し、楽しみのある生活が送れるような支援に努めている。法人本部も近くにあり、新人職員からベテランの職員まで満遍なく配置されている。加えて、利用者手作りのお食事が提供され、一緒に食事を摂るなど、利用者にも喜ばれている。感染対策が続き、家族や地域との交流を自粛しているところも見られ、今後は様々な制限の解除に向けて、少しずつ変化や交流が行われていくことも期待される。</p>
--------------------------------------	--	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	日々の言動や状態を把握して暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	/	/	入居時に、管理者等は利用者や家族と面談を行い、思いや希望、意向などの聞き取りをしている。また、日々の生活の中で、職員は利用者から思いを把握するよう努めている。把握した内容は、アセスメントシートや申し送りノートなどに記載し、職員に周知して共有をしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	本人の状態を把握し、職員会等で対応を話し合っている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	長年グループホームで生活しており、家族スタッフ間で思いについて話し合っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	プランに本人の暮らし方の思いを整理し、共有化するための記録を行っている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	普段から本人の思いを把握し、どういう気持ちでいるかを見落とさない様になっている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入所時のアセスメントにより、家族様や利用していた施設職員から思いを聞き、馴染みの暮らしが継続できるようにしている。	/	/	◎	入居時に、管理者等は利用者や家族と面談を行い、アセスメントシートを活用して、生活環境や生活歴などの聞き取りをしている。生活歴の欄には、学童期のクラブ活動や結婚歴、居住していた場所、以前の仕事などの情報が残されていることを確認することができた。また、日々の生活の中で、利用者から新たな情報を聞くこともあり、記録に残し、職員間で共有をしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	一人一人の身体面・精神面の観察を行い、利用者一人一人の有する能力等の現状を把握に努めている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	24時間の中で生活リズムや過ごし方、接し方等、利用者一人一人の違いを把握出来るよう努めている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	本人の視点、本人の立場になり検討している。	/	/	/	介護計画の更新前に、利用者ごとの担当職員が、身体状況を中心に、再アセスメントを行い、アセスメントシートの情報を更新している。また、職員会等の中で、課題やより良いサービスの提供を検討している。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	◎	何が心配事なのか、安心して暮らすためにはどうしたらいいか状態に応じた検討を行っている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	本人の意向を聞きどう暮らし方が良いか反映された内容になっている。	/	/	/	事前に、往診時に医師から指示やアドバイスももらい、アセスメント情報や把握した情報をもとに、担当者会議の中で話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。また、利用者や家族が会議に参加できない場合には、事前に意見や要望を聞くようになっている。さらに、利用者から出された意見や要望のほか、話し合われた内容を反映した介護計画の内容を確認することができた。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	どういった声掛けや接し方が、本人にとって心地よく過ごせるかを反映している。	◎	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	重度の利用者がグループホームにおいて心地よく過ごせる内容になっている。現在重度者はいない。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	◎	本人の支えとして、家族様、地域の方、協力病院の協力体制が盛り込まれた内容になっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	6か月ごとに計画書を見直し、内容を把握理解し職員内で共有している。	/	/	◎	介護計画の立案時に回覧を行い、職員の確認後に押印するとともに、修正のある場合には報告をしている。また、計画が綴じられた利用者の個別ファイルが事務所に置かれているほか、支援経過等の記録用紙の上部に番号が振られた短期目標が印字され、記録の際に、計画の内容を確認できるようになっている。支援経過記録には、日々の様子の記録のみに留まらず、番号の目標等に対応した記録が記載できるようになっているが、有効に活用されていない記録も見受けられたため、普段と変わった言動やサービス提供時の様子、サービスが実施できなかった理由を記載するなど、職員間で統一感のある記録が残されることも期待される。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	日々の支援記録や、モニタリングを行い、プランに沿ってケアを実践し、利用者様の状態変化や発した言葉等の記録を具体的に残し日々の支援につなげている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	介護保険の期間に合わせて、6か月ごとに見直しを行っている。状態の変化した場合はその都度見直しを行っている。	/	/	◎	介護計画は6か月に1回見直しをしている。担当職員が月1回モニタリングを実施して、利用者の現状を確認するとともに、3か月に1回モニタリング表に評価やコメントを残している。また、月1回の職員会の中で、一人ひとりの利用者の課題などの検討を重ねるため、変化がない場合を含めて、検討する機会を設けることができる。さらに、大きな変化が見られた場合には、担当者会議を実施して計画の見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	各担当者が毎月モニタリングを行い、現状確認を行っている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	本人の心身の状態や暮らしの変化が生じたときは、家族と話し合い変更申請を行うなど新たな計画書を作成している。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	その都度話し合い、対応を行い結果の共有をしている。緊急案件がある場合もその都度話し合いを行っている。	/	/	◎	月1回ユニットごとに職員会を実施し、利用者の現状確認や課題などの話し合いをしている。事前に、希望休を考慮した次月の勤務表の作成後に、職員会の開催日を決め、より多くの職員が会議に参加できるようにしている。また、会議の終了後に議事録を作成するとともに、全ての職員に回覧を行い、確認後にサインを残すようにしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	なんでも話し合えるように、お茶やコーヒーを飲みながらリラックスして意見交換が出来る雰囲気づくりを行っている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	職員数が少ない交代勤務の為、参加できる人数が限られており、全員参加は難しい。出席できない職員には書面にて内容を共有している。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	連絡帳、支援記録、職員ノートに記入して職員全体に伝わるようにしている。職員ノート・連絡帳など、職員が目を通し判押ししている。	◎	/	◎	生活リズム・パターンシートや申し送りノート、連絡帳などを使い分け、日々の申し送りを実施している。出勤時等に確認を行い、職員は確認後にサインを行うことが習慣化され、現在のところ、伝達の漏れなどは発生していない。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	利用者一人一人に声掛け、意思をくみ取りたいことを把握し、希望をかなえられるよう努めている。	/	/	/	着る服やおやつの種類、風船パレーやぬり絵などのレクリエーションの参加の有無など、日常生活の様々な場面で、職員は声をかけ、利用者によって選択や自己決定ができるよう支援している。また、利用者は好きなことをしながら、自由に生活を送ることもできる。さらに、音楽療法や外気浴などの場面で、生き生きとした表情が多く見られ、職員は喜びや楽しみのある生活の場面が増やせるように取り組んでいる。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	日常生活にて色々な場面で自己決定が出来るように話したり、自分で選べる機会や場所を作り選ぶよう待っている。	/	/	○	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人一人のペースに合わせてゆっくり過ぎて頂けるよう掛けている。本人の希望に添えるようにしている。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	お手伝いなどをしたときに、「ありがとう。」とお礼を言って喜ばれたり、家族様が面会に来られると嬉しそうなお表情や生き生きとした表情が見られる。	/	/	◎	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	表情や仕草など少しの変化も見逃さず、本人の意向に沿い暮らしが出来るように支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であかさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	◎	職員は勉強会で人権や尊厳とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度に気を付けている。また、職員は利用者一人一人に対し敬意を払い、人前で羞恥心を無視した介護や声掛けをしないよう目立たずさりげない対応に努めている。	◎	◎	○	声かけのほか、気持ちや感情を大切に接遇などの研修を実施し、人権や尊厳などの理解を深めてもらい、職員は意識した対応をしている。また、居室を利用者専用のプライバシーのある場所の意識づけを行い、入室時に、職員はノックや声かけをしてから入室をしている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	利用者の気持ちを考えプライバシーに配慮しながら目立たずさりげない対応に努めている。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	入室前はノックや声掛けをするよう努めている。本人居室におらず、居室入り口が開いているときや、掃除の際に本人がいない時は声掛けせず入室する時はある。本人がいるときは声掛けが出来る。	/	/	○	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	利用者の個人情報を保護し、外部に漏れないように管理を行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	利用者にも役割を持っていただき、感謝の気持ちを伝える機会を作りお互いに信頼関係を築いている。	/	/	/	トラブルが起こりそうな場合には、職員が早期に間に入るなどの対応を行い、未然に大きなトラブルを防げるように努めている。また、職員は一人ひとりの利用者の性格や相性を把握し、席替えをして利用者同士の距離を調整したり、イベントの中で一緒に活動することで、仲を取り持ったりするなどの工夫を行い、可能な限り良好な関係が築かれるように努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	出来る事できない事、わかることわからない事等、お互いが助け合いをして笑顔で心地よく過ごせる大切さを理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	利用者同士の関係性、性格などを理解し、それぞれの良い部分が発揮できる様な席順を考えている。一つのテーブルに集まりレクレーションをするなど、交流の場面を作り関係性を築いている。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブルの原因を考え解消に努める。お互いの自尊心を傷つけないよう、間に入る。話をよく聞き、ほかの利用者にも不安や支障を生じさせないように配慮をしている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	本人からの聞き取りや家族からこれまでの生活歴や人間関係などの情報収集を把握している。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナが流行しており、面会や外出が出来ない状態であったが、曜日や時間帯を決めて、玄関先でマスク着用し感染対策を十分とり、書類のサインや押印時に遠くから顔を見たり声掛けを行ってほしい関係性が途切れない様支援を行っている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	敷地内を日常的に散歩できるような支援している。コロナが流行しており、ドライブにはいけないが、敷地内の花等を見ながら季節感を感じられるよう支援を行っている。暖かい日は、本人の意思を聞きしばらく日向ぼっこをすることがある。	○	△	△	コロナ禍や感染対策が続き、積極的な外出支援まではできていないものの、広い敷地内を歩いたり、屋外に出て、外気浴や体操をしたりするなど、利用者が気分転換を図れるよう支援している。感染対策の緩和に伴い、少しずつ以前のような外出行事や、家族との外出や買い物などが行われていくことも期待される。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	コロナ流行に伴い、グループ内で敬老の日などの行事を行っていた。そのため地域の方の協力や、地域のイベント参加の外出支援を進める事が出来なかった。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	職員は一人一人の認知症の行動・心理状態を把握し理解して、それぞれの状態に合わせて対応、要因を取り除くケアを行っている。	/	/	/	利用者の高齢化や重度化に伴い、自立度が下がってきているものの、可能な限りできることは自分でしてもらい、職員は手や口を出さずに見守り、待つ介護に努めている。また、共用スペースには、分かりやすく体操の順番が貼られ、定期的に体操を実施している。さらに、日常の家事などの生活リハビリや散歩などを取り入れ、少しでも利用者の心身機能の維持が図れるよう努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	普段の健康状態を把握し、出来る事はなるべく自分で行えるよう支援し、日常生活の活動の中から自然と運動が出来、身体維持向上が図れるよう努めている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	テーブルを拭く、洗濯物を畳む、テレビのスイッチを入れるなど、出来るお手伝いを用意して見守ったり一緒に行う様になっている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	利用者一人一人の有する能力理解をし、楽しむことや得意分野のお手伝いを役割としてお願いしたり、誰がどの分野で出番になるかを把握している。	/	/	/	洗濯物たたみやお盆拭き、ヤクルト配りなど、職員は利用者にも声をかけ、できることや得意な役割を担ってもらえるよう支援している。また、手伝ってもらった後には、職員から「ありがとうございました」などの感謝の言葉を伝える機会を増やし、張り合いや次回の支援にも繋げている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	日常的に一人一人の楽しい事や役割、出番づくりを行っている。洗濯物を畳んでくれたり、塗り絵やパズル・歌を唱う機会等の楽しみを提供出来る取り組みを行っている。	◎	◎	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。デザイン、素材、色柄長さ等好みを把握している。				2か月に1回、訪問理容の来訪があり、好みの髪形に整えてもらうことができている。また、整容の乱れや服の汚れが見られた場合には、気づいた職員がさりげなく声をかけてフロアをしたり、居室に移動して、着替えてもらったりするなどの対応をしている。さらに、重度な利用者にも、毎日更衣をしてもらうほか、共有スペースに移動して過ごしてもらうなど、重度でない利用者と同様のケアを心がけた支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	好きな色や柄、デザイン等、一人一人の好みを理解している。身だしなみおしゃれについて、本人の意向を汲み取りながら支援をしている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	主に入所時、好みの服やバッグ、馴染みのあるものを持参して使用している。自己決定が分らない方については、「はい、いいえ。」で答えられるように本人の気持ちに添えるようにしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	利用者の表情や顔きなどから本人の気持ちを察し理解している。持参しているもので好みのものを着てもらっている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	本人だけに伝わるようさりげない対応、声掛けを心掛けている。口の周囲などの汚れはさりげなくティッシュペーパーを渡している。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	訪問散髪を利用している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	毎朝、髪を梳いたりなるべく明るい服を選び着ていただいている。家族が季節の服を持参している。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	咀嚼回数を増やし、ゆっくり召し上がるよう声掛けを行い、味や量、硬さに配慮している。				法人の管理栄養士が献立を作成し、法人本部から食材が届けられ、各ユニットで職員が調理をしている。利用者の重度化のほか、感染対策に伴い、できること限られているが、可能な限り、利用者へ下膳やお盆拭きなどを手伝ってもらっている。誕生日にケーキを提供するなど対応をしている。アレルギーの有無や嫌いな食材を把握し、代替えの食材を用意することもある。食器や湯飲みなどは、入居時に使い慣れた物の持ち込んで使用することもできるほか、状態に応じて、職員は使いやすい物を家族等に提案し、用意してもらうこともある。食事の際に、職員は同じテーブルに座り、見守りや食事介助をしながら、同じ食事を摂ることができている。重度な状態であっても、共用スペースに誘導して、食事を摂ってもらうことができおり、カウンターキッチンから調理の音や匂いなどを感じるほか、ホワイトボードにメニューを記載して説明するなど、食事が待ち遠しくなるような雰囲気づくりにも努めている。また、管理栄養士にメニューを相談するほか、食べやすい食事の形態のほか、嗜好や嫌いなメニューなどを職員会の中で話し合いをしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	施設全体が同じ栄養上の献立で毎日食材が届いている。台所が狭く手伝っていただくことができない。できない方もおられる。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	シルバーカーや歩行器歩行、車椅子の方が多く、自力歩行が出来る方がほとんどいない。出されたものは「これは美味しい、ほんとに美味しい。」と喜ばれている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	苦手な食べ物、アレルギーについても本人様や家族様から聞き把握して、他の食材に代替えを行い食べてもらっている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音なつかしいもの等を取り入れている。	◎	栄養士が献立を作成している。一年を通し、旬の食材を召し上がっている。おやつも季節感を感じられるようにしている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	嚥下など身体状態に問題のある方には御粥、刻み食で対応している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	お茶碗は陶器を使用しているが、持ちにくい方には軽いものを使用している。湯飲みは軽く使いやすいものを使用している。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	テーブルが狭い為、一緒に食事を摂ることができないが、同じフロア内で食事をし常に見守りを行っている。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	利用者様の近くで調理を行っており、「いいにおいがする。今日はカレー?。」と香りを楽しまれている。その日の献立の話をして聞いて食事を楽しみにされている。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	栄養士がカロリー計算をしたものを提供している。水分量のチェックを毎日行っている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	刻み食にしたり、必要量を摂取でき、脱水や低栄養にならない様取り組んでいる。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	法人内の栄養士が行っている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食材は毎日新鮮なものが届られる。調理器具は毎日消毒洗浄している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	管理者より指導あり、口腔ケアの必要性を理解している。				毎食後のほか、起床時や就寝前に、職員は利用者に声をかけ、共用スペースにある洗面所で、自分でできる歯磨きなどの口腔ケアを実施し、見守りやできない部分のサポートをしている。自分で歯磨きができる利用者を含めて、定期的に全ての利用者の口腔内の確認を行い、訴えのほか、義歯のかみ合わせなどの異常が見られた場合には、早期の歯科受診に繋げている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	一人一人の口腔内の健康状況について把握している。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	家族様が歯科医院に連れて行ってくださっている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎食後声掛けし、ご自分で義歯を外しコップに入れていただいている。寝る前に職員が「リント」を準備している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	◎	毎食後口腔ケアを行い、夕食後は「リント」を入れ、消毒している。歯磨き、義歯の手入れ、うがいの支援、出血や炎症のチェックを日常的に支援を行っている。必要時、ご家族様が歯科医院に連れて行って下さる。			◎	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	日中はパッドを使用せず、夜間のみ使用するなど、なるべく紙パンツやパッドを使用しない様になっているが、認知症の進行が見られるときはご家族に了解を得て、やむを得ず使用する。				事業所では、基本的に利用者がトイレで排泄できるように心がけた支援に努めている。また、生活リズム・パターンシートを活用して、利用者の排泄パターンを把握し、定期的やタイミングを見て、職員は声かけやトイレ誘導をしている。また、失禁等が多くなった場合には、適切な排泄用品の使用を職員間で検討し、利用者や家族に相談の上で、使用するようになっている。さらに、安易におむつを頼ることのない支援に努め、おむつを履いて入居した利用者が、こまめな声かけやトイレ誘導することにより、リハビリパンツに変更となり、その後シルバーカーを使用して自分でトイレに行けるようになった事例もある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	認知種への影響を理解している。毎日排便確認を行い、定期的な排便があるよう主治医と相談して便秘薬を使用している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	リズムパターンシートに記録し、間隔や量等、一人一人の状態を把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	紙パンツを使用されていても、毎日の排泄パターンに基づき、声掛けトイレ誘導を行っている。一人一人のその時の状態に合わせて支援を行っている。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	排便記録を観察し、改善点などがなく取り組みを行っている。はちみつ、ヤクルト・牛乳・ココアなど整腸作用の期待できるものを余分に飲めるように支援しており、体操や散歩等で体を動かしている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	リズムパターンに基づき、早めの声掛けで排泄の失敗を防いでいる。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	オムツの使用は職員が一方的に決めず、状態を家族様に説明し、利用しやすいものを選択できるようにしている。使用開始前は家族と相談している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	一人一人の状態に合わせて、紙パンツ、下着を適宜使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	散歩や体操など運動を促し、腸の動きが良くなるような取り組みを行っている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	職員が怪我や病気療養の為、週2回入浴となる場合もある。入浴時は一人ずつゆっくり入浴し、本人のペースで入浴されている。	◎		○	午前中の時間帯に、週3回利用者は入浴することができる。湯の温度や湯船に浸かる長さなど、可能な限り、利用者の希望や習慣を考慮した支援に努めている。利用者の状態に応じて、時には、職員が短パンを履いて湯船に浸かるなどの支援をすることもある。中には、入浴を拒む利用者もあり、時間帯や職員を変えて、声をかけるなどの工夫をしている。今後は、利用者が希望する入浴回数の増や時間帯にも可能な限り対応するなど、利用者により自由な入浴できる機会が提供していくことも期待される。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	入浴剤を入れ、一人一人適温にし、リラックスできるよう支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	ご自分で洗っていただけたところは洗っていただき、介助がいるところは、手すりを持ってもらいながら、安全に浴槽に入れるよう支援を行っている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	拒否がある時は時間を置き、再度声掛けを行う。入浴剤を入れ、疲労回復の為と声掛け促しを行う。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	毎日バイタルチェックを行い、入浴の可否を決めている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜勤が居室巡回し、睡眠時間確認、睡眠パターンの把握をしている。日々の申し送りなどで状態を把握している。	/	/	/	事業所では、安易に服薬に頼ることなく、日中の活動を楽しみながら、夜間に利用者が安眠できるよう支援している。中には、不穏が続き、服薬をしている1名の利用者があるものの、定期的に、利用者の様子を医師に伝えて相談をしている。また、生活リズム・パターンシートに記録を残し、一人ひとりの利用者の睡眠状況の把握をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中体操や散歩を行い身体を動かし、夜間スムーズに入眠できる様取り組みを行っている。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日々の睡眠パターンや日中の状態を把握し、状態に応じた支援内容の検討を行っている。日頃の睡眠パターンの変化が大きくみられるときは、受診を行い医師と相談しながら支援を行っている。夜間眠れない時は医師と相談して睡眠導入剤を使うこともある。	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	その日の体調に応じて、倦怠感がある時は、居室で休んでいただき本人のペースで過ごして頂いている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	携帯電話をかけた後、手紙を書く方が現在はいないが、家族に電話をかけたい希望がある時は、ホームの電話で連絡を取れるよう支援を行っている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	本人からの希望がある時は、職員が手助けし本人の希望に添えるよう支援を行っている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	利用者が電話をかけた時は、希望に添えるよう配慮を行っている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙や葉書を本人に渡している。連絡を取りたい時は、職員から連絡し音信が取れるよう工夫しながら配慮している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	本人様が電話をかけた時は、事務室の電話で職員が電話の操作をしてお話をされている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	職員は本人がお金を所持し使用する大切さを理解しているが、認知症の為金銭の管理をできる利用者はいない。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	コロナの為外出は出来ていない。以前は移動パン屋が来ていたが、パンを食べられない方に配慮し、現在は移動パン屋は来ていない。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	認知症重度の方が多く、以前お金を所持していた方が、「お金がなくなった。盗られた。盗った。」等、落ち着きがなくなったため、現在お金を所持していない。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	施設で必要なお金は施設で管理して報告を行っている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	毎月領収書を渡している。出納帳の残金を確認していただき、残り少なくなったときは、1万円を預かっている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	本人や家族の状況、その時々ニーズに応じて、既存のサービスにとらわれない柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	/	○	コロナ禍や感染対策が続き、外出や面会などの制限が設けられ、対応できないこともあるが、利用者や家族から出された要望は検討を行い、可能な範囲での対応に努めている。感染対策や制限の緩和に伴い、今後は、アセスメントなどで得られた個別のニーズに対して、柔軟に対応していくことも期待される。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	出入りがしやすいよう、玄関のアプローチは広くなだらかなスロープとし、敷地内に蜜柑や桜の木を植え親しみやすい雰囲気を作っている。	◎	◎	◎	建物の前には家庭菜園や花壇が整備され、キャベツやチシャなどの野菜のほか、デージーなどの花が育てられている。また、桜などの木が植えられ、春には事業所の窓からもきれいな花が見えるようになっている。系列法人を含めて、広い敷地内の一角に事業所はあり、近隣の住宅は少ないものの、初めて来所する人も、気軽に入れる雰囲気となっている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾り付けをしていたり、必要なものが置いていない寂風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	◎	共用の空間では壁面などで季節感を出し変化させている。利用者の座席のすぐ前の台所で調理し、美味しくおおいが漂い、家庭的な雰囲気作りを行い、心地よく過ごせる配慮を行っている。	◎	◎	◎	共有スペースにはソファやテーブル、テレビが置かれ、日中に利用者は思い思いのものをしながら、くつろくことができる。訪問調査日には、職員の電子ピアノに合わせて、懐かしい歌を歌う音楽療法が実施され、楽しそうに歌う利用者の様子を見ることができた。また、廊下などの共用スペースには、行事や生活の写真のほか、利用者が作成した作品が飾られ、家庭的な雰囲気も感じられる。さらに、掃除や換気が行き届き、不快な音や臭いも感じられず、採光も入り明るく、快適な空間となっている。窓からは、近隣の田畑が見えるなど、利用者は四季を感じることができる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	日差しが強まぶしい時などはカーテンを開けたりして室内の調光を行ったり、トイレの匂いなどにも気をつけている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節の物や季節ごとの行事がある時は、生活感・季節感があるよう室内の飾り付けを行う。日々心地よく過ごせる様工夫を行っている。			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	仲の良い方同士と同じテーブルにつけるよう配慮をおこなったり、人の気配を感じられる中でご自分のペースで休息も出来るよう支援を行っている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	家族の写真を飾ったり、居室でTVを見るなどゆっくり過ごせる様工夫をしている。	◎		○	居室にはベッドやタンスなどが備え付けられている。利用者は馴染みの物や使い慣れた物を持ち込むことができ、テレビやいす、家族の写真、自分が作成した作品を置くなど、居心地の良い空間づくりをしている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	一人一人の出来る事、わかることを把握できる様に努め、安全に自立した生活を送れるよう、廊下の手すり設置や、夜間の居室内PTイレ設置、ベッド柵の保護など安全面に気を付けながら、利用者の出来る事をしていただいている。			○	建物の設計上もあり、高い位置にトイレや浴室のマークが取り付けられているが、認識しにくい利用者も多くいるため、利用者の目線の高さに合わせて、様々な表示や案内が貼られ、混乱しないように工夫をしている。また、廊下には手すりが設置され、不要な物を置かず、利用者の動線を確保している。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	雑誌や本はいつでも手に取れるところに置かれている。ゴミ箱やほうきなどは目につくところに置いている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	◎	日中玄関のカギはかけていない。鍵をかけることの弊害についてはすべての職員が理解している。利用者が外に出ようとするときは、職員が声掛けし一緒に散歩をしながら気分転換を図っている。	◎	◎	◎	職員は、鍵をかけることの弊害を理解している。日中に、玄関の施錠をしておらず、夜間のみ防犯のために施錠をしている。また、外に出ようとする利用者には、職員が声をかけ、屋外に出て、寄り添いながらゆっくりと散歩をしたり、話を聞いたりするなどの対応をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	施錠を望むご家族様には、ご理解いただけるよう説明し了承を得ている。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	健康診断や受診記録、服薬状況により確認している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	日々様子観察をしており、支援記録に記入している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	異常を感じたときは、主治医に連絡、訪問看護に連絡などを行い、重症化防止に努めている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	系列病院へ受診するが、医師の指示または家族の希望により、他病院を受診する場合は紹介状を手渡し、家族様に受診をしていただいている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	利用者様と家族様で受診をしていただいているが、入院の場合は介護看護状態等の情報提供を行っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の意見を聞き合っている。	◎	他の病院を受診した場合は、本人や家族の同意を得て、検査結果や今後の方針について話し合いを行っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院の際は、現状・内服薬の内容・ホームでの生活状態などの情報提供を行っている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	医療相談員と常に話し合い、主治医からも現状を確認しながら情報交換に努めている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	介護職員は、日常の異常があれば、週1回の訪問看護に来られた際に、看護師どんな小さい事でも相談している。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間、訪問看護師により病院に相談できるようになっている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	週1回訪問看護師がホームに来られ、バイタルチェック他異常がないか、利用者の健康状態を把握している。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	職員は内服薬の目的、用法用量を理解している。内服薬の効果が現れなかったり、今までにない行動が見られたり、異変がある場合は主治医や家族に報告し、受診時に医師に情報提供を行っている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	日付や名前を確認し、飲み忘れや間違いがないように飲んだ後に空袋をいったんおいておき、後で飲み忘れがないか確認している。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	服薬により、歩行状態の変化、表情や活動の抑制、食欲低下、口渇、便秘などの確認を行っている。	/	/	/	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	重度化したり、終末期には入院することが多いが、面会に行ったり、家族と話し合い、今後の方針を共有している。	/	/	/	事業所には、「重度化対応・終末期ケア対応指針」があり、入居時に、利用者や家族に説明して、同意を得ている。また、24時間体制で、系列法人の病院や訪問看護との医療連携体制が図られ、利用者や家族、職員には安心感がある。状態の変化や重度化した場合には、受診時に主治医から家族等に説明してもらうとともに、家族や関係者、管理者等と話し合い、方針の決定や共有をしている。また、系列法人には病院や介護老人保健施設のほか、法人内に特別養護老人ホームなどもあり、状態の変化や重度化した場合には、病院等に転居する利用者が多く、今までに事業所として看取り支援はほとんど行われていない。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	家族・主治医・職員全員で共有している。重度化、終末期には、協力病院と連携し対応を行っている。	◎	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	管理者は、終末期の対応について職員の力量を把握し、現状どこまでの支援が出来るのかの見極めを行っている。家族と相談して決めている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	家族にできる事、できない事について十分な説明をし理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、医療機関と連携を図りながら、チームで支援していく体制を整えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の困りごと、介護力、金銭面等相談に乗り、精神面での支えを行っている。本人から話があった場合は、相談に乗っている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	組織内の研修に参加して、感染症対策、早期発見対応が出来るように定期的に学んでいる。感染症対策に、万全の体制を行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	感染症が発生した場合、対応について理解している。現在、感染症罹患患者はいないが、施設での対応は難しく、病院へ連絡対応をしてもらっている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	保健所や行政、病院関係施設全体の合同職員会やテレビなどで感染症の発生状況や感染予防対策の情報を入手しており、随時の対応を行っている。	/	/	/	
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員は手洗いやうがいなどを徹底しており、利用者・訪問者についても清潔が保持できる様に支援している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族に面会に来ていただき、職員ではできない心のケアを行い、家族様ができない事は職員が支援をし話し合いを行っている。	/	/	/	コロナ禍や感染対策が続き、家族の参加を呼びかけた行事や家族会の開催を自粛している。今後は、感染対策を講じた上で、少しずつ家族との交流が再開されていくことを期待したい。また、時間制限を設けて、玄関スペースでの家族との面会が可能となっている。毎月請求書の家族への送付に合わせて、利用者や事業所の様子を書いた手紙を同封し、利用者の近況を伝えている。必要に応じて、電話連絡を行い、利用者の様子を伝えている。さらに、前回のサービスの評価結果から、職員の入退職などの異動は、玄関スペースに貼って家族に周知するとともに、面会時に家族に確認してもらうなど、家族に伝わるよう改善されている。運営上の連絡は少ないが、必要に応じて、説明をするようにしている。加えて、来訪時に玄関先での対応となっているが、職員は家族等に声をかけ、意見や要望を聞くようにしている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	コロナの関係で、家族様の面会は玄関先で行い、ホームでの活動参加は難しい。現在は、職員と利用者で体操やレクリエーション、散歩や行事などの活動を行っている。	○	/	△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	電話や来所時に家族が知りたいこと、相談事があれば、具体的な内容を把握して報告を行っている。また、グループホーム便りなどで、様子や写真を同封し郵送している。月1回程度、家族様へ手紙や電話で近況をお知らせしている。	◎	/	◎	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	家族と本人の関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	面会に来られた際、職員の異動・転職があれば伝えている。玄関前に職員の名前と写真を掲示している。	◎	/	○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	毎月の手紙で連絡し、起こりうるリスクに対する対策が行えるようにしている。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族が来られた時に、気がかりな事を相談してもらったり、電話でも気軽に話してもらえるように、管理者や職員からも声掛けをしている。現在はコロナの関係で、居室での宿泊などは行っていない。玄関先での面会を行っている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約及び料金改定の際には料金の内訳を文書で示し、料金の具体的な理由の説明をして同意を得ている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退居については、その決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行ったうえで納得のいく退居先に移れるよう支援している。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営会等に出席していただき、事業の目的や役割などを説明し理解を図っている。	/	○	/	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	×	現在もコロナ対応にて、GHの前を散歩したり、出会ったりしたときは挨拶をしている。秋祭り等だんじりが来てくれて見物はするが、日常的な付き合いはない。	/	△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	見守り支援は家族様が中心で、ほとんどない。	/	/	/	
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	地域でお世話になった方や、散歩している方に挨拶はあるが、立ち寄りて話をすることはほとんどない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りつらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	入所前に近くに住んでいた方や、同じ施設に居た方の訪問はあるが、日常的な付き合いはなし。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	現在もコロナの関係で外出支援は行っていない。GHからも外出は出来ない。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	2ヶ月に1回程度散髪の為理美容師さんが来られて散髪を実施してくれる。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	コロナでなければ利用者などの家族、地域の方の参加がある。	◎	/	○	コロナ禍や感染対策が続き、運営推進会議は書面開催が続いている。各ユニットの家族の中から、会議の参加担当を決め、4家族が参画をしているが、新たに入居した家族には議事録を送付することはできているものの、会議に参加していない全ての家族までには会議の内容を周知することができていないため、会議の終了後に議事録を全ての家族に送付したり、事業所便りでお知らせしたり、事前に意見を出してもらうなど、会議に参画できる機会が確保されることも期待される。また、書面開催の会議が続いており、事前に参加メンバーから意見を聞いたり、感染対策を講じた上で、集合形式の会議を再開することも期待される。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	運営推進会議では、利用者やサービスの実際の評価への取り組み状況について報告している。会議で出された意見や、提案等を日々の取り組みやサービス向上に生かし、その状況や結果を報告している。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	現状コロナは完全に終息しておらず、運営推進会議を開催できていない。月に1回程度ご家族が来所されたときに施設の状況やご本人の状態を説明している。	/	/	◎	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	玄関、事務所に理念を掲げており、日々斉唱している。	/	/	/	代表者は直接事業所に来訪する機会は少ないが、管理者が朝礼や職員会の機会に職員から意見を聞き、必要に応じて、法人本部に伝えることもできる。また、勤務表を作成時に希望休を聞いたり、ストレスチェックを実施したりするなど、働きやすい職場環境づくりに努めている。
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	玄関横に掲げており目につくようにしている。	◎	◎	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	事前に研修の案内があり仕事の都合により研修に参加している。	/	/	/	代表者は直接事業所に来訪する機会は少ないが、管理者が朝礼や職員会の機会に職員から意見を聞き、必要に応じて、法人本部に伝えることもできる。また、勤務表を作成時に希望休を聞いたり、ストレスチェックを実施したりするなど、働きやすい職場環境づくりに努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるように取り組んでいる。	○	毎月1回職員会を行い、特に認知症や虐待等についての勉強会を行っている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	代表者は、職員の努力、勤務状態を把握し、給与水準などは、代表者が行っている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	計画的ではなく、随時勉強会を行いスキルアップに取り組んでいる。ネット環境は整っていない。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	職員の人数が限られており、毎日の業務にストレスを感じる事が多い。有給を利用しストレスの解消をしてもらっている。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	全ての職員が利用者・高齢者虐待防止法について勉強会に参加して、どのような行為なのかは理解している。また、すべての職員が虐待や不適切なケアの行為を知り、発見した時の対処法と手順を理解している。現在、身体拘束に関する経過記録を毎月行っている。	/	/	◎	定期的に、虐待防止の研修を開催し、職員は不適切な言動などを理解している。また、委員会を設置して、虐待対応担当者の選任を行い、定期的に話し合いをしている。さらに、不適切な言動が見られた場合には、職員は管理者等に報告し、該当職員に確認して、指導や注意喚起をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	職員会、昼食の時間、朝夕の申し送り時に話し合いの場を提供されている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	職員の表情や態度声掛け、日常に注意を払って点検している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	代表者およびすべての職員は理解されている。	/	/	/	代表者は直接事業所に来訪する機会は少ないが、管理者が朝礼や職員会の機会に職員から意見を聞き、必要に応じて、法人本部に伝えることもできる。また、勤務表を作成時に希望休を聞いたり、ストレスチェックを実施したりするなど、働きやすい職場環境づくりに努めている。
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	身体拘束の勉強会を行い、毎月拘束ありなしの記録報告をしている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を促している。	◎	身体拘束を行わないケアの取り組みを行っている。やむをえない場合、家族の同意を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	◎	管理者は成年後見制度の研修に参加して学んだ。成年後見人、保佐人を依頼している入所者はいない。	/	/	/	
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	現在、成年後見や保佐人を依頼する該当者はいないが、該当者がいれば、連携をとれる体制作りは出来ている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	事故発生時、対応マニュアルがある為、訪問看護師に連絡してもらい、事故や急変時の対応をしてもらっている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	法人内にて実施されている消防署の講習会、実習会で身に付けている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハット事故報告書を元に職員間で話し、再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	日々の1人ひとりの状態を観察し、リスクや危険について話し、事故防止に取り組んでいる。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	苦情の内容に対応し、速やかに対応して解決に努めている。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	家族からの苦情はないが、都度話し合いをして解決対応をしている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情の内容に対応し、速やかに対応し解決に努め、家族様や利用者様とより良い関係づくりに努めている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	運営会議、苦情箱で対応している。	◎	/	○	日々の生活の中で、職員は利用者から意見や要望を聞き、可能な範囲で対応をしている。家族には、来訪時や電話連絡時を活用して、意見や要望を聞くように努めている。事業所には、提案箱が設置され、家族等は意見を出せるようにしているが、あまり出されない状況となっている。また、管理者はリーダーと協力し、職員会や日々の業務の中で、職員に声をかけて意見を聞いている。
		b	契約当初だけでなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	苦情や相談があれば口答で公的窓口の情報の提供を行う様になっている。	/	/	/	
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	要望があれば出向き、話を傾聴する様になっている。	/	/	/	
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員会や申し送り等に意見や提案を聞き、利用者様の支援につなげている。	/	/	○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	毎年行えず、外部評価の年度のみ全員で自己評価に取り組んでいる。	/	/	/	外部評価の自己評価は、全ての職員で取り組み、管理者等が取りまとめて作成をしている。職員会等の中で、サービスの評価結果を職員に周知し、目標達成計画を作成して、達成に向けて取り組んでいる。また、運営推進会議の中で、サービスの評価結果の報告をしている。感染対策が続いたこともあり、目標達成計画の取り組み状況のモニターを呼びかけるまでには至っていないため、集合形式の会議の中で、サービスの評価結果や目標達成計画を報告して、意見をもらったり、家族や会議の参加メンバーに呼びかけて、取り組み状況のモニターの協力をしてもらったりするなど、出された意見をサービスの質の向上に繋げていくことも期待される。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	年間を通し、利用者対して取り組み等、目標を立てて取り組んでいる。	/	/	/	
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議で伝え、参加していない方に会議の内容を全員に伝えている。	◎	◎	○	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議にて目標達成計画にあげ、取り組みの成果を報告・確認している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	本部にはあるが、周知は出来ていない。	/	/	/	定期的に、火災などを想定した避難訓練を実施している。感染対策が続き、地域住民や他の事業所と連携した訓練までは実施することができていない。また、法人として、食料などの備蓄品を用意している。今後は、法人本部と連携を図りながら、避難訓練を実施したり、地域の防災訓練に参加協力をしたり、地域住民との合同の避難訓練を実施するなど、少しずつ地域との災害時の協力支援体制づくりが行われていくことを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	訓練はしているが、夜間帯などの訓練は出来ていない。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	消防設備の定期点検は年2回行っている。食料、備品については本部で行っている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	消防署との連携は取れているが、地域住民との協力体制は確保されていない。	○	×	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	ネットワーク作り、共同訓練、地域の災害対策には取り組めていない。関連施設間の連携は取れている。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	広報誌の発行を行っている。認知症については、事業所内で勉強会を行っている。	/	/	/	系列法人には市行政から委託を受けた地域包括支援センターもあり、直接相談が寄せられることは少ないが、地域住民から相談が寄せられた場合には、快く対応をしている。また、看護学生の実習の受け入れにも協力をしている。事業所では、市行政や関係機関と連携を図ることができている。感染対策が続き、地域ケアの拠点として、他の事業所と協働するまでには至っておらず、法人本部や地域包括支援センターなどの関係機関と協力しながら、地域活動に協働していくことも期待される。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	地域の高齢者や認知症の方の相談があれば対応し、その家族への支援を行っている。	/	◎	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	以前は、本部にある地域交流センターでは、あいあいコンサートが行われ、オペラカフェ等利用され地域の集まりの場となっていたが、現在はコロナが完全終息出来ていない為、活動は出来ず。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	ボランティアや介護実習生の要請があれば、受け入れ協力している。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	市や地域包括センターは運営会議を通してかかわりを持っている。医療では、協力病院と密に連携している。	/	/	○	